

## 平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

### 1. 学校概要

学校名 多摩市立多摩第三小学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  中高一貫教育  高等学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 特別支援学校  その他 ( )

所在地 〒206-0014  
多摩市乞田 712 番地

E-mail ito-nobuhisa@city.tama.tokyo.jp

Website http://schit.net/tama/estamadaisan/

児童生徒数 男子 184 名 女子 163 名 合計 347 名  
 児童・生徒の年齢 7 歳～12 歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( 地域 )

### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

第3学年「見つけよう 伝えよう 町じまん」(38時間)【町づくり】

第4学年「地域と環境」(40時間)【環境】

第5学年「地域防災マップをつくろう」(35時間)【防災・減災】

第6学年「乞田川探検隊」(20時間)【環境】

この中から2つの学年の実践について紹介します。

○第5学年「地域防災マップをつくろう」【防災・減災】

1 単元名 「地域防災マップをつくろう」(35時間) 【防災・減災】

#### 2 単元の目標

幅広く災害について調べ、自分たちの住む地域や家庭の防災について考えることを通して、現在や未来において取り組んでいこうとする実践的な態度を養う。

#### 3 単元の内容

(1) 学習課題

我が国は、世界でも有数の地震多発国であり、北太平洋を北上する台風の進路に位置する地理的条件も併せもつ。今年度は強力な台風がたびたび関東付近を通り、大きな被害をもたらしたことも記憶に新しい。本校では日々の注意喚起や避難訓練をはじめ、機会に触れては災害から自らの命を守るための指導を繰り返している。いざというときのために、防災に対する正しい知識は備えておかななくてはならないことは児童も理解している。しかし、大きな災害に遭うのは希であり、なかなか身近なものとして実感することが難しいものでもある。

そこで、災害について幅広く調べ、地域や家庭の防災について考えることを通して、防災に関する正しい知識を身に付けさせる。そして、獲得した知識を生かして自らの家庭における防災・減災について備えようとする、実践的な態度を身につけてほしいとの願いを込めて本単元を設定した。

(2) 学習対象

- ・ 様々な自然災害による被害と、それに対する取り組み。
- ・ 児童の生活する地域の防災設備や防災に関わる仕事をする人。
- ・ 自らの家庭における防災の取り組み。

(3) 学習事項

- ・ 様々な自然災害による被害が自分たちの生活に及ぼす影響。
- ・ 様々な自然災害を未然に防いだり、災害にあったときに被害を少なくしたりするための工夫。
- ・ 地域にある防災設備の機能やその場所に設置されている意図。
- ・ 消防団など、地域の防災に関わる人々の工夫や努力。
- ・ 自らの家庭における防災上の課題とそれに対する改善策。

#### 4 育てたい力及び評価規準

視点	観点	評価規準
学習方法に関する こと	ア 課題設定 情報収集 整理・分析 まとめ・表現	①提示した資料や調べたことから、課題を設定することができる。 ②課題解決に必要な情報を集め、取捨選択し、効果的に活用しながら考えることができる。 ③収集した情報をもとに、多面的に見つめ、事実を根拠に類推したり、関連付けたりしながら考えることができる。 ④相手や目的に応じて表現方法を考え、効果的に表現することができる。
自分自身に関する こと	イ 自己を見つめる	①分かったことや考えたことについて根拠を明らかにしながら、自分の考えを書いたり、発表したりすることができる。 ②これまでの学習や学習を通して得た考えや思いを振り返り、自分自身や自分の生活を見直し、よりよい生活のあり方を考えることができる。
他者や社会に 関すること	ウ コミュニケーション	①友達や自分の考えについて、自分の意見を述べたり、友達の思いを聞いたりすることができる。

#### 5 ESDで育てたい力

E S D—① コミュニケーションを行う力	E S D—② つながりを尊重する態度
・命を守るために必要なことを少人数集団で調べたり、話し合ったりして情報や考えをやりとりすることで、防災・減災に対する価値の高い防災マップ作りに生かすことができる。	・防災マップ作りを通して、防災・減災の大切さやしくみ、対応手段を学び、いざという時、個人としてはもちろん、地域の一員としても適切な行動をしようとする意識を高める。

#### 6 成果

- ・フィールドワークを行うことにより、防災意識の高まりや防災知識を身に付けたいという気持ちをもつことができた。
- ・グループ内で話し合い活動を行い、危険箇所の適切な取捨選択ができた。

#### 7 課題

- ・適切な話し合い活動の場を設定する必要があった。
- ・子どもの考える防災は、危ない場所というのが根本だが、何を基準に考えてフィールドワークを設定したかが不明瞭だった。

#### ○第6学年「乞田川探検隊」【環境】

1 単元名 「乞田川探検隊」(25時間) 【環境】

#### 2 単元の見標

地域にある乞田川に関心をもって調べ、地域の人たちが乞田川をより身近にするために、自分たちにできることを考える。

### 3 単元の内容

#### (4) 学習課題

乞田川は、以前は暴れ川（氾濫川）と恐れられつつも、子供たちの遊び場であったり、田に水を引いたり等、地域と密接な河川であった。しかし、現在では、多摩市ニュータウン計画の際に川は整備され、氾濫はなくなった。また、上下水道の整備や宅地拡大による田の減少に伴って、地域住民と乞田川が接する機会は遠ざかってしまった。春には河川沿いに植えられた桜が咲き、一時の賑わいを見せている。しかし、それ以外の時期は人通りも少なく、子供たちも乞田川を見ることが少ない。

桜の美しい季節に乞田川沿いを歩き、観察をした。その時、桜には関心があるものの、乞田川に対する関心が通り過ぎる人も児童自身も薄いことが分かった。しかし、登下校や習い事で乞田川沿いを通る児童の中には、乞田川が気になっている児童もいた。もっと乞田川を知りたい、という意欲が生まれ、乞田川の歴史や環境、かかわる人々について調査していく本単元が設定された。調べを進めていく中で、地域の人たちと一緒に乞田川を身近なものにしたい、という思いが生まれ、身近にするためにはどんなことが自分たちにはできるのか、追究していくこととなった。

#### (5) 学習対象

- ・ 乞田川の歴史
- ・ 乞田川の環境

#### (6) 学習事項

##### 【乞田川の歴史に関すること】

昔の人々と乞田川のかかわりや暮らしの変化を知る。

##### 【乞田川の環境】

乞田川の水質や生息する動植物について調査し、現状を知る。

### 4 育てたい力及び評価規準

視点	観点	評価規準
学習方法に関する こと	ア 課題設定 情報収集 整理・分析 まとめ・表現	①提示した資料や調べたことから、課題を設定することができる。 ②課題解決に必要な情報を集め、取捨選択し、効果的に活用しながら考えることができる。 ③収集した情報をもとに、多面的に見つめ、事実を根拠に類推したり、関連付けたりしながら考えることができる。 ④相手や目的に応じて表現方法を考え、効果的に表現することができる。
自分自身に関する こと	イ 自己を見つめる	①分かったことや考えたことについて根拠を明らかにしながら、自分の考えを書いたり、発表したりすることができる。 ②これまでの学習、学習を通して得た考えや思いを振り返り、自分自身や自分の生活を見直し、よりよい生活のあり方を考えたり、実践に生かしたりすることができる。

他者や社会に 関すること	ウ コミュニケーション	① 友達や自分の考えについて、自分の意見を述べたり、友達の 思いを聞いたりすることができる。 ② 地域の人々の願いや思いが分かり、自分の考えをはっきりさせ ながら、意見を交流することができる。
-----------------	----------------	---

## 5 ESDで育てたい力

ESD—① コミュニケーションを行う力	ESD—② つながり尊重する態度
・ 乞田川にかかわる地域の人々の思いや考えをくみ 取りながら、乞田川をより身近にするために、自 分たちにできることを多様なグループで話し合 うことができる。	・ 乞田川の調査や未来を考える活動を通して、地 域の一員として、乞田川を大切にしようとする 意識を高める。

## 6 成果

- ・ フィールドワークを行うことにより、乞田川について関心を高めるとともに、課題を発見することができた。
- ・ 学校の近くにある乞田川を新しく教材として開発することができた。
- ・ 新たな発表方法として、プレゼンテーションソフトを活用し、提示資料を効果的に使って発表することができた。

## 7 課題

- ・ 「身近」という言葉のイメージを、共通認識することが難しかった。そのため、「身近に」よりも「わたしたちの」としたほうが良い。
- ・ 設定時間が少なかった。提案した内容を、全体で再検討し、実行するところまで行わせられるとよかった。

(2) 活動時間について (下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他 ( )